

## 専任教員教育研究業績

平成29年5月12日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
鈴木 邦明	すずき くにあき	保育学科 通信教育課程	教授・准教授(講師)・助教	男

## 担当科目名

健康・スポーツ理論、身体表現Ⅰ、身体表現Ⅱ

## 学歴

和暦(西暦)年 月	事項	学位
平成3年(1991)3月	東京学芸大学 教育学部 小学校教員養成課程 理科専修 入学	
平成7年(1995)3月	東京学芸大学 教育学部 小学校教員養成課程 理科専修 卒業	学士(教育)
平成27年(2015)4月	放送大学大学院 文化科学研究科 修士課程 入学	
平成29年(2017)3月	放送大学大学院 文化科学研究科 修士課程 修了	修士(学術)

## 教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
横浜市立日吉台小学校	平成7年4月 ～平成13年3月	教諭、小学校全科
横浜市立青木小学校	平成13年4月 ～平成21年3月	教諭、小学校全科
埼玉県深谷市立桜ヶ丘小学校	平成21年4月 ～平成29年3月	教諭、小学校全科
小田原短期大学	平成29年4月～	特任講師

## 所属学会等

名称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
こども環境学会	平成16年5月～	会員
日本幼児体育学会	平成20年8月～	会員
アジア幼児体育学会	平成20年8月～	会員
日本体操学会	平成27年4月～	会員
日本子ども学会	平成27年4月～	会員
日本発育発達学会	平成28年5月～	会員
日本ESD学会	平成29年5月～	会員

## 社会活動等

名称	活動期間	活動内容
埼玉県熊谷市熊谷地域審議会 委員	平成22年1月～ 平成24年1月	
埼玉県熊谷市自治基本条例審議会 委員	平成24年6月～ 平成26年5月	
埼玉県熊谷市行政改革推進委員会 委員	平成27年10月～	

担当教科目に関する資格・免許等				
名称	取得年月	取得機関		
教員免許(小学校一種)	H7年3月	東京都教委		
教員免許(中学校一種(理科))	H7年3月	東京都教委		
教員免許(高等学校一種(理科))	H7年3月	東京都教委		
スポーツリーダー	H15年2月	日本体育協会		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) 1 「都市部の小学生の徒歩による通学が健康に与える影響及び望ましい生活のあり方」	単著	平成19年1月	大同生命厚生事業団 第12回「地域保健福祉研究助成」報告集 181-186頁	小学生の徒歩による通学にかかる時間とそれが身体に与える影響について調査した結果、以下のことが分かった。 ・都市部においては、小学生の徒歩による通学が肥満に影響を与えている ・学校関係者、親はその影響を理解した上で子どもと接する必要がある。 ・子ども自身が自分のおかれた状況を正しく理解し、自分にあった日常生活を送っていく必要がある。
2 「幼稚園・保育園から小学校へ入学する際に子どもが感じる不安について」	単著	平成19年4月	国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要 青少年フォーラム第7号193-199頁 (査読有論文)	小学校一年生の入学時点では、通っていた幼稚園・保育園や家庭環境によって子どもに様々な点で違いがある。小学校一年生が不安に思っていることや幼稚園・保育園と小学校の違いについて、アンケート調査を行った。その結果、子どもは「通学」に対して大きな不安を持っていることが分かった。また、小学校入学に関して、小学校の様子が「分からない」ことから子どもは不安に感じていることが分かった。
3 「地域の人との関わりを作る場としての学校の在り方」	単著	平成19年7月	(社)地域問題研究所 地域問題研究73号 9-16頁	地域の人と学校との関わりにおける望ましい形は以下の通りである。 ・双方にメリットがある ・地域の人が、学校の教育活動、特に授業(学習)に、関わりをもつ ・地域の人が学校に関わることで、子どもを取り巻く環境が安全なものへとになっていく
4 「小学区一年生の生活科における「公園遊び」の中で子どもの町との関わりを高める取り組み」	単著	平成19年8月	(財)住宅総合研究財団 「住まい・まち学習」 実践報告・論文集8 3-8頁	自分のまちや住まいの環境に関心を持ち、より良くしていこうとする心情を持てる人間に育てていくことが大切である。小学校一年生の段階においては、まず、まちに関心を持つということから始めることが大切である。そして、まちの人との関わりやもっと広い地域へ関心を持っていくなどの活動につながっていくことが望まれる。

5 「小学校一年生が自分の命に向き合う授業のあり方」	単著	平成19年12月	信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要教育実践研究 第8号 123-132頁	小学校1年生に対して、命に関する学習を取り組んだ。道徳2時間、国語1時間の合計3時間で取り組んだ。3時間目の「生きている」ことについて考え、詩を作る活動が、子ども達の考えを深めることにつながっていた。それまでの2時間の学習をまとめ、その上で生きていくことについて真剣に考え、友達を一体感を持つことができる活動となった。それらは子どもの持つ生きることへの肯定感をさらに強めることにつながっていた。
6 「幼稚園・保育園から小学校に入学する際に子どもが感じる不安とその子どものおかれた環境との関連」	単著	平成20年3月	日本子ども学会 チャイルドサイエンスvol.4 48-51頁 (査読有論文)	小学校に入学する際に子どもが感じている不安について、調べた。 ・ 保育園に通っていた子どもの方が幼稚園に通っていた子どもよりも「友達」「運動」について不安を感じている。 ・ 小学校に入学する際に子どもが感じている不安に幼稚園と保育園で違いがあることは、幼稚園・保育園のおかれた環境の違いが影響を与えている。 ・ 小学校幼稚園保育園の担当者は、子どもがいた環境により違いがあることを考慮し、接していくことが望まれる
7 「小学校三年生の社会科において子どものまちとの関わりを高める調べ学習の取り組み」	単著	平成20年8月	(財)住宅総合研究財団「住まい・まち学習」実践報告・論文集9 3-8頁	小学校3年生が社会科の学習においてまちを題材にして調べ学習に取り組んだ。生活科から社会科へ変わる小学校3年生の時期にまちを題材にした学習に取り組むことでスムーズにつながりにすることができる。また、まちという身近な素材で調べ学習の方法を学んでいくことで、テーマの決め方、実際の調べ方などを理解しやすくなっていた。
8 「農村都市交流型修学旅行において子どもがまちとの関わりを深める取り組み」	単著	平成21年9月	(財)住宅総合研究財団「住まい・まち学習」実践報告・論文集10 9-12頁	農水省、文科省、総務省が連携して、「子ども農山漁村交流プロジェクト」を平成20年度からスタートした。都会に住んでいる小学生を数人ずつ農山漁村の一般の民家に宿泊させ、体験交流を推進し、自律心や思いやりの心、社会性を育むのが狙いである。今回、都市部(横浜市神奈川区)に住む小学校6年生が以前から交流のある農村地域(山形県鶴岡市楡引地区)を修学旅行で訪問した。その中で、子ども達は、ホームステイ、農業体験、学校間交流などを行い、自然や人と豊かにふれ合った。それらは、子どもたちの育ちに様々な面で良い影響を与えていた。
9 「小一プロブレムが起こりくい授業方法の工夫～小学校一年生の生活科における「公園あそび」を題材にして～」	単著	平成22年3月	独立行政法人国立青少年教育振興機構『国立青少年教育振興機構研究紀要 青少年教育フォーラム 第10号』119-128頁 (査読有論文)	小一プロブレムには様々な要素が関係している。この授業の特色は、近隣の公園での生き物の観察・自然体験と教室内での調べ学習・創作活動とを結びつけたという点にある。さまざまな体験活動・創作活動を通じて、学ぶ意欲や創意工夫など、これから学習を進めていく上で必要となる学びの基礎を養うことができたとと言える。また、学校外での体験を深めるような学習を教室で行うことが、小学校での学習に子どもたちを馴染ませることにつながったと考えられる。
10 「鬼ごっこの方法の違いによる子どもの身体活動量の変化」	単著	平成24年7月	日本幼児体育学会『幼児体育学研究 第4巻第1号』13-20頁 (査読有論文)	小学校の体育授業において鬼ごっこに取り組み、子どもの身体活動量について調べた。その結果、教師が鬼として参加すると、子どもの身体活動量が増加していた。また、運動に対しての意欲に関しても「楽しい」と感じた子どもが増えていた。

<p>(その他 学会発表)</p> <p>1 「地域のひととの関わりを作る場としての学校のあり方」</p>	単	平成19年4月	こども環境学会 2007年大会 (横浜)	<p>地域のひとと学校との関わりにおける望ましい形は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・双方にメリットがある</li> <li>・地域のひとが、学校の教育活動、特に授業 (学習) に、関わりをもつ</li> <li>・地域のひとが学校に関わることで、子どもを取り巻く環境が安全なものへとなっていく</li> </ul>
<p>2 「小学校一年生が感じる幼稚園・保育園と小学校の違いと入学時の不安との関連」</p>	単	平成19年9月	日本子ども学会 第4回子ども学会議	<p>小学校入学についての不安要素を聞いた所「勉強」「トイレ」「着脱」での不安傾向が強く「遊び」「友達」については不安傾向が弱かった。不安傾向が強い「勉強」については、今回も多くの子ども (54%) が違っていると感じている。また、不安傾向が弱かった「遊び」「友達」については、「遊び」は31%、「友達」は27%の子どもが違っていると感じている。子どもが違うと感じていることと入学にあたって不安に感じることの関連があると考えられる。</p>
<p>3 「体育学習における鬼ごっこが子どもの体力に与える影響」</p>	単	平成19年9月	(社) 日本フィットネス協会・(財) 健康体力作り事業財団2007フィットネス実践報告会	<p>小学校の体育授業において継続的に鬼ごっこに取り組むことによって、子どもの体力にどのような影響があるのかを調査し、より良い体育授業のあり方や子どもの生活のあり方について考察した。</p>
<p>4 「児童期における生活全般を意識した運動指導のあり方」</p>	単	平成20年9月	(社) 日本フィットネス協会・(財) 健康体力作り事業財団、2008フィットネス実践報告会	<p>小学生を対象に、普段の運動経験などを意識させながら、運動に取り組んだ。意識させたことで、休み時間などの過ごし方に変化が生じた。</p>
<p>5 「小学校における鬼ごっこを題材とした体力作りの試み」</p>	単	平成21年4月	こども環境学会 2009年大会 (千葉)	<p>子どもの体力低下に関して、運動遊びの一種である鬼ごっこに着目して取り組んだ。鬼ごっこは、運動量を確保する意味でも、とても有効であった。また、人数、場所などをあまり問うことなく行うことができ、積極的に授業において取り組んでいくことが望まれる。</p>
<p>6 「子供が小学校入学時に感じる学校間の違いと小一プロブレムの関連」</p>	単	平成21年4月	日本保育学会 第62回大会	<p>小一プロブレムについて子供が小学校入学時に感じる学校間の違いに着目して調査を行った。小一プロブレムの原因の一つとされる幼稚園・保育園と小学校の違いをなるべく少ないものにしていくことで、スムーズな接続ができていくであろう。</p>
<p>7 「鬼ごっこが小学校一年生の体や心に与える影響」</p>	単	平成21年9月	(社) 日本フィットネス協会・(財) 健康体力作り事業財団2009フィットネス実践報告会	<p>小学校一年生を対象に鬼ごっこが子どもの心や体に与える影響について調べた。体力増進だけでなく、社会性を育むことにも良い影響を与えていた。</p>
<p>8 「小学校三年生の体育授業における鬼ごっこのやり方の違いによる子どもの活動量の差」</p>	単	平成22年9月	(社) 日本フィットネス協会・(財) 健康体力作り事業財団2010フィットネス実践報告会	<p>小学校三年生を対象に体育授業における身体活動量の違いを調査した。鬼ごっこのやり方を変えることで大きく違いが生じていた。</p>
<p>9 「鬼ごっこにおいて教師の関わりが子どもの身体活動量に与える影響」</p>	単	平成23年12月	こども環境学会 学術集会	<p>小学校三年生を対象に積極的に教師が関わりながら鬼ごっこに取り組んだ。そして、子どもの歩数を調査した結果、身体活動量が多くなることが分かった。</p>

10「小学校における鬼ごっこの活用による子どもの休み時間の過ごし方の変化」	単	平成25年8月	(社)日本フィットネス協会・(財)健康体力作り事業財団2013フィットネス実践報告会	小学校四年生を対象に年間を通して体育の授業において積極的に鬼ごっこに取り組んだ。そして、年度末に調査した結果、休み時間に外遊びをする子どもが多くなることが分かった。
11「不思議と感じる感性をいかに育むか」	単	平成27年11月	東京学芸大学 理科教員高度支援センター第6回理科教育シンポジウム	理科教育における感性についてシンポジウムのパネリストとして参加した。小学校における実践(考える時間の確保の大切さなど)について発表した。
12「子どもが意欲的に取り組む持久走の学習～ミニ駅伝の取り組み～」	単	平成28年8月	日本幼児体育学会 第12回大会(東京女子体育大学)	小学校3年生においてミニ駅伝を用いた持久走の学習に取り組んだ。それぞれの子どものレベルに合った距離を走ること、応援してくれる存在がいることなどが意欲の高まりにつながっていた。
13「小学校の体育授業における鬼ごっこの身体活動量」	共	平成29年3月	日本発育発達学会 第15回大会(岐阜大学)	小学校3年生を対象として、鬼ごっことドッジボールの加速度を測定した。鬼ごっこは、ドッジボールと比べ、身体活動量が多かった。特に女子の下位群においてそれが顕著だった。
14「傾斜地における鬼ごっこに関する研究～子どもの意欲に着目して～」	単	平成29年5月	こども環境学会 学術集会	傾斜地を利用して小学校3年生が鬼ごっこに取り組んだ。意欲などを調査した所、体育館などの平らな所で行う鬼ごっこよりも楽しいと感じる子どもが多かった。障害物や様々な変化が子どもの楽しさを増していると思われる。
(その他 報告書等) 1「教育つれづれ日記」	単	平成23年11月～	内田洋行 教育総合研究所 学びの場.com	内田洋行教育総合研究所の学びの場.comにて、隔週でコラムを担当している。対象は、教育関係者、保護者などで、学級経営論、授業方法論、家庭教育についてなど幅広いテーマで執筆している。 ( <a href="http://www.manabinoba.com/index.cfm/8,0,21,172.html">http://www.manabinoba.com/index.cfm/8,0,21,172.html</a> )
2「命の大切さを教える授業」		平成25年2月	内田洋行 教育総合研究所 学びの場.com 実践の場より	内田洋行教育総合研究所の学びの場.com「実践の場にて」において、命の大切さをテーマにした授業について取材を受けそれを特集した記事が掲載された。 ( <a href="http://www.manabinoba.com/index.cfm/6,18924,14.html">http://www.manabinoba.com/index.cfm/6,18924,14.html</a> )
3「親の「授業参加」のすすめ」	単	平成26年6月	明治図書、『授業力&学級統率力 2014 6月号』74-75頁	「授業参観において保護者を巻き込むネタ」というテーマで、小学校の授業参観において小学校の学級担任が心がけることについて記述した。
4「子どもに聞いた学校への不安」		平成27年1月	学研 ママノート	学研「ママノート」において、幼保小の連携について取材を受け、それを特集した記事が掲載された。 ( <a href="http://mamanote.jp/news.html?id=1190">http://mamanote.jp/news.html?id=1190</a> )
5「保護者会はプレゼンしっかりと準備を」	単	平成27年3月	明治図書、『授業力&学級経営力 2015 4月号』68-69頁	「はじめが肝心 保護者との協力体制を作る秘訣」というテーマで、小学校の新年度の保護者会において小学校の学級担任が心がけることについて記述した。
6「我が子が小1プロブレムに陥らないために」		平成27年3月	NIT mamatenna	NIT mamatenna において、幼保小の連携について取材を受け、それを特集した記事が掲載された。 ( <a href="http://mama.bibeaute.com/article/14618/">http://mama.bibeaute.com/article/14618/</a> )

<p>7 「夏休み明け一気に学校モードに引き込むワザ」</p> <p>8 「夏休みで差をつける1か月の有意義な過ごし方」</p> <p>9 「正念場の9月！絶対成功する学級リスタート術」</p>	<p>単</p> <p>単</p>	<p>平成27年8月</p> <p>平成27年8月</p> <p>平成28年8月</p>	<p>明治図書、『授業力&amp;学級経営力 2015 8月号』62-63頁</p> <p>NTT mamatenna</p> <p>明治図書、『授業力&amp;学級経営力 2016 9月号』62-63頁</p>	<p>「夏休み明け一気に学校モードに引き込むワザ」というテーマで、夏休み明けに小学校の学級担任が心掛けることについて記述した。</p> <p>NTT mamatenna において、夏休みの有意義な過ごし方について取材を受け、それを特集した記事が掲載された。 (<a href="http://mama.bibeaute.com/article/18315/">http://mama.bibeaute.com/article/18315/</a>)</p> <p>「正念場の9月！絶対成功する学級リスタート術」というテーマで小学校低学年において行うコミュニケーション・エクササイズの実践について記述した。</p>
<p>その他 (表彰等)</p>	<p>平成 20 年 2 月 平成 25 年 2 月 平成 25 年 8 月 平成 28 年 10 月</p>	<p>(財) 上廣倫理財団 第 16 回上廣道徳教育賞 奨励賞 埼玉県深谷市教育委員会 平成 25 年度安部木村教育学術研究 優良賞 (社) 日本フィットネス協会 フィットネスミット 2013 指導実践報告会 優秀報告賞 日本教育公務員弘済会埼玉支部 平成 28 年度教育実践報告 優良賞</p>		